

2021 年度 10 月入学・2022 年度 4 月入学
金沢大学大学院法学研究科(修士課程)
第1期募集 入学試験問題

(1 枚のうち 1 枚目)

専攻名	法学・政治学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	民法		

次の【問題1】及び【問題2】について解答しなさい。解答に際しては冒頭に問題番号を付すること。

【問題1】

A社は、車庫に社用車(車体には会社名及び会社ロゴが大々的に記載されている)を保管しており、社員には、業務以外の目的で社用車を使用することを禁止していた。ところが、A社の社員であるBは、この社用車でキャンプに行こうと言う友人の誘いを断ることができず、業務外の日に、友人らとキャンプに出かける目的で、この車を運転することになった。Bは、キャンプ場に向かう途中、小さな公園の前を通過した時に、ボールを追いかけて車道に飛び出してきたC(当時8歳)と衝突した。この事故によって、Cは2か月間入院することになった。Cが公園でボール遊びをする際にはCの母親の友人であるDも付き添っていたが、Dはスマートフォンに夢中で、Cの動きに全く注意を払っていなかったようである。

Cは、A社に対して、どのような請求をすることができるか。仮にこの請求が認められた場合、A社は、Bに対してどのような請求をすることができるか。判例・学説を踏まえて、相手方の反論を想定しながら論じなさい。なお、自動車損害賠償保障法については検討しなくてよい。

【問題2】

Aと内縁関係にあったBは、Aの実印、印鑑登録証明書、登記済権利証等を無断で持ち出し、書類を偽造するなどしてA所有の甲土地について贈与を原因とする所有権移転登記を行い、B名義とした。Aは、1か月後、この事実を知りBに抗議をしたが、登記抹消手続には時間も費用もかかることから、将来行うこととして、そのままにしていた。その後、AとBは婚姻し、同居するようになったこともあり、Aは登記名義を回復しないままにし、Bが銀行から融資を受ける際にも、B名義のまま甲土地に抵当権設定登記がなされた。

婚姻から約3年後、Bの不貞行為が原因でAとBの婚姻関係は破綻し、AがBに対して離婚を迫ったこともあって、Bは古くからの友人であるCに対し甲土地を売却し、Cへの所有権移転登記もなされた。

Aは、Cに対して当該所有権移転登記の抹消を請求した。この場合、Aの請求が認められるか、論じなさい。